

石川町資源調査調書

通し番号	87	整理番号	8	-	001	作成	平成19年2月	
名称	石川氏				項目	人物		
管理	住所							
	連絡先							
	管理者及び所有者							
概要	<p>石川氏とは、石川を苗字とする一族のことである。戦国大名石川氏は三芦城を居城として、石川郡の大部分を支配していた。家紋は松の苗木を啜えた舞鶴を使用したと伝わる。</p> <p>石川氏はその系譜で清和源氏頼親流を称し、大和守源頼親の三男頼遠の子有光を始祖とする。永承6年（1051年）陸奥守源頼義に従い父頼遠とともに奥州に下向し、その軍功により源義家の代官として陸奥国石川郡泉荘の支配を委ねられたという。康平6年（1063年）10月、有光がこの地に下向し三芦城を築城して居住し石川氏を称したのが土着の始まりという。その後石川一族の多くは一貫して北朝方に属し各地を転戦するが、その軍功により足利尊氏より改めて石川庄の支配を委ねられたと考えられている。ただ石川一族の千石大和権守時光は南朝方であったことが知られている。永禄11年（1568年）石川晴光は伊達晴宗の四男親宗を娘婿に迎え昭光と名乗らせた。伊達氏の後盾を得ることによって石川氏の存立をはかった。</p> <p>その後天正18年（1590年）8月、豊臣秀吉の奥羽仕置によって石川氏は所領を没収され戦国大名として終わりを遂げた。天正19年（1591年）石川昭光は伊達氏に仕え一門の首座に列し志田郡松山館に居住し六千石を領した。慶長3年（1598年）には伊具郡角田城（宮城県角田市）に移り一万石となり、延宝6年（1678年）宗弘の代には二万一千三百八十石余を領した。</p> <p>石川氏の墓地は長泉寺にある。</p>							
参考文献	ビジュアル石川町の歴史～石川町史別巻～ 石川町史							
関連項目	石都々古和気神社（4-001）		三芦城（6-001）		石都々古和気神社鰐口（5-006）			長泉寺（3-010）
備考								

写真及び位置図等



石川氏の家紋



石川公墓地（長泉寺）



石川昭光の具足

石川町資源調査調書

通し番号	88	整理番号	8	-	002	作成	平成19年2月
名称	イズミンキブ 和泉式部				項目	人物	
管理	住所						
	連絡先						
	管理者及び所有者						
概要	<p>石川地方には処々に和泉式部の伝承が残されている。</p> <p>そもそも和泉式部は、平安時代中期を代表する女流歌人であり、「和泉式部集」正集・続集合わせて1540首が収載され、しかも「拾遺和歌集」をはじめ多くの勅撰集に採られた歌は247首で、女流歌人では最も多く、とりわけ恋愛歌において日本の和歌史上抜群の名作を残している。しかし、その全生涯については未だわからない部分が多いといわれている。</p> <p>石川町の曲木の地は和泉式部生誕の地といわれ、式部の父安田氏の菩提寺といわれる金子山光国寺があって、和泉式部の縁起物語りが伝わっている。境内には式部の徳をたたえて里人が建てたと伝わる式部堂もある。背後の丘は式部の父国安長者の屋敷跡とされ、金子館と呼ばれている。</p> <p>「泉式部」の碑には伝承歌が彫られている。</p> <p style="padding-left: 40px;">薄墨の桜は いまでも咲きにけり 身はふりぬとも 名こそ栄ゆれ</p>						
参考文献	石川町観光パンフレット						
関連項目	光国寺（3-005） 小和清水（19-001、22-002）						
備考							
写真及び位置図等							
 <p style="text-align: center;">式部堂</p>				 <p style="text-align: center;">「泉式部」の碑</p>			

石川町資源調査調書

通し番号	89	整理番号	8 - 003	作成	平成19年2月
名称	河野 広中		項目	人物	
管理	住所				
	連絡先				
	管理者及び所有者				
概要	<p>河野広中は、嘉永2年（1849年）三春町の郷土の家に生まれました。 明治維新後は、ジョン・スチュアート・ミルの『自由乃理』を読み、自由民権運動に開眼する。明治8年（1875年）に石川（のちの福島県石川町）の区長に転じた河野は石川町で石陽社を設立し、東北地方の自由民権運動のさきがけとなった。明治14年（1881年）10月自由党結成に参加。自由党幹部として、中央政界の傍ら福島県会議員、県会議長として県議会においても指導的立場にあった。しかし、明治15年（1882年）福島県令三島通庸の暴政に対して福島事件がおきる。内乱陰謀の容疑で明治15年12月に検挙され、明治16年（1883年）高等法院において軽禁獄7年の刑を宣告された。明治22年（1889年）の大日本帝国憲法発布に伴う恩赦によって出獄を許された。 明治23年（1890年）第1回衆議院議員総選挙に出馬、初当選を飾る。以後、大正9年（1920年）の第14回総選挙まで連続当選した。河野は当初、自由党に所属し、東北派の領袖として党内に一大勢力を築いた。 東日本の自由民権運動の中心的人物といえる。</p>				
参考文献	ビジュアル石川町の歴史～石川町史別巻～ 石川町史第6巻 各論編1 福島民権家列伝 高橋哲夫				
関連項目	吉田光一（8-005）鈴木重謙（8-004）				
備考	1849生～1923没				
写真及び位置図等					
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>河野広中</p>  </div> <div style="text-align: center;">  <p>石陽社長辞令 河野広中への辞令書</p> </div> </div>					

石川町資源調査調書

通し番号	90	整理番号	8 - 004	作成	平成19年2月
名称	スズキ シウケン 鈴木 重謙		項目	人物	
管理	住所	石川町字下泉163-1			
	連絡先				
	管理者及び所有者				
概要	<p>吉田重謙は安政5年（1858年）の生まれ、福島事件のときにはまだ、24歳であった。重謙の家は、今でも石川町の中央通りに、さながら神門を思わせるようなすばらしく豪壮な門があって人目を引く。鈴木家は苗字帯刀を許された郷士で、石川で一番の旧家である。重謙は、婿養子だが、養父の床右衛門も石陽社の発起人で、明治11年には吉田光一や吉田正雄とともに新聞発行の計画を立てたほどだった。</p> <p>明治15年の3月頃から重謙は、石陽社の若手活動家として、精力的に演説会を開き、演中に二人の警察官が入ってくると、「烏のような黒い服を着て、黄色い筋をつけた巡査はこの席にいりやしません」といったので、官吏侮辱の名目で白河軽罪裁判所に告発されている。その後も各地で演説会に参加したが、福島事件が起きると石川警察署に拘引され、翌2月上旬まで拘引された。</p> <p>のち県議員、町長を務め昭和4年（1924年）72歳で亡くなった。</p>				
参考文献	ビジュアル石川町の歴史～石川町史別巻～ 石川町史第6巻 各論編1				
関連項目	河野広中（8-003）吉田光一（8-005）				
備考	1858生～1924没				
写真及び位置図等	<p style="text-align: center;">鈴木 重謙</p> 				

石川町資源調査調書

通し番号	91	整理番号	8	-	005	作成	平成19年2月
名称	^{ミダ} 吉田 ^{ミチ} 光一				項目	人物	
管 理	住 所	石川町字下泉150					
	連 絡 先	TEL 0247-26-7534					
	管理者及び所有者	宮司 吉田英高					
概 要	<p>吉田光一は石川に住む累代の神官の家に弘化2年（1849年）に生まれた。光一は石川の戸長となって、たまたま石川の区長となってきた河野広中と親交するようになった。</p> <p>明治8年（1875年）、石川会所の区長河野広中、神官吉田光一、多くの田畑を所有する、豪農であった吉田正雄や、鈴木嘉平らと共に有志会議を結成し、その後の民権運動の先駆けとなった。</p> <p>明治14年河野のすすめもあり、県会議員となり明治14年9月に福島自由新聞が発刊される時の発起人となった。翌15年2月自由党の幹部（党務委員）に推されると、5月からの福島県会では、三島県令と対立した。</p> <p>その後、喜多方事件の後拘引され、その様子は手記「会津嶺吹雪」に記されている。</p> <p>明治27年に町制が施されるや、その初代町長となり、森嘉種と共に、石川義塾（現学法石川高校）を設立した。しかし、明治28年の秋、病を得て亡くなった。</p>						
参考文献	ビジュアル石川町の歴史～石川町史別巻～ 会津嶺吹雪 福島県立会津高等学校古文研究会 福島民権家列伝 高橋哲夫						
関連項目	河野広中（8-003） 鈴木重謙（8-004） 森嘉種（8-006） 石都々古和気神社（4-001）						
備 考	石都々古和気神社第三十一代宮司 1849年生～1895年没						
写真及び位置図等		吉田光一 					

石川町資源調査調書

通し番号	92	整理番号	8 - 006	作成	平成19年1月
名称	森嘉種		項目	人物	
管理	住所				
	連絡先				
	管理者及び所有者				
概要	<p>学校法人石川高等学校の前身私立石川義塾は、明治25年(1892年)6月石川村に開校。森嘉種は石川郡石川小学校の訓導であったが、中等教育に恵まれない石川地方の青少年にその機会を与えようと、同じ思いを抱いていたとみられる当時の初代石川町長吉田光一と協議し、石川義塾を創設しました。</p> <p>明治30年(1897年) 私立石川義塾設置認可申請・許可 昭和23年(1948年) 財団法人石川高等学校設立 昭和26年(1951年) 学校法人石川高等学校に組織変更</p> <p>嘉種は、漢学者であるが、広く学問を学んだことから、石川地方には様々な石があることに気づき、学校で教えるための標本をつくる決意をし、石川地方の山や川の隅々まで採集を行った。嘉種は、名のわからない鉱物を採集すると、東京の有名な鉱物学者に調査を依頼した。学者たちは、その鉱物を詳細に調べて「石川産の鉱物〇〇」として学界に報告をしている。こうして、日本における新しい鉱物の発見となったり、石川が新しい産地として全国に知られるようになった。また、嘉種は「ラジウム」鉱泉が石川にあることも発表している。</p> <p>明治40年代、集められた鉱物を整理し、解説をつけ、石川地方産鉱物標本として、東京にある当時の帝室博物館に献納したり、東京帝国大学(現在の東京大学)やその他の大学等にも寄贈した。この標本を使って研究論文を発表した著名な鉱物学者もあり、石川の名はますます世</p>				
参考文献	ビジュアル石川町の歴史～石川町史別巻～ 学校法人石川高等学校ホームページ http://www.gakuseki-h.fks.ed.jp 石川町観光パンフレット				
関連項目	学法石川高校鉱物資料館(13-006) 学校法人石川高等学校(14-002)				
備考	1862年生～1933年没				
写真及び位置図等					
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;"> <p>森嘉種</p>  <p>創立者 森 嘉種 先生</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>福島県鉱物誌</p> <p>「行学一如」 森による建学精神 「学んだことは必ず実行すべし、学問と行動は分離せず」</p> </div> </div>					

石川町資源調査調書

通し番号	93	整理番号	8	-	007	作成	平成19年2月																
名称	小林 和 ^ワ 平 ^{ヘイ}				項目	人物																	
管理	住所	石川町大字沢井字小金石																					
	連絡先																						
	管理者及び所有者																						
概要	<p>小林和^ワ平^{ヘイ}は明治14年(1881年)生まれた。昭和41年(1966年)3月8日行年86歳で生涯を閉じた。石川町を代表する石工である。</p> <p>和^ワ平^{ヘイ}は明治25年(1892年)頃12、3歳で現在の浅川町大字福貴作に住む石工小松寅吉布孝に弟子入りした。その頃の寅吉は、石の彫刻では近郷周辺に名工として知られた石工であった。和^ワ平^{ヘイ}は師寅吉のもとで厳しい修業を重ねるうち才能を発揮し、名実ともに一番弟子として寅吉の片腕となった。後年孫の和喜に、師匠の寅吉を尊敬するとともに、その一番弟子であることが自分の誇りだと話していたという。</p> <p>明治42年沢井字小金石に居を構え独立した。独立後も師寅吉とは一緒に仕事をし、この地方は勿論栃木県那須町の方まで作品を残している。和^ワ平^{ヘイ}は特に狛犬の彫刻を得意とし、昭和5年に石都々古和気神社、6年に須賀川の保土原神社、7年に古殿の古殿八幡神社、8年に中島村羽黒神社、9年に棚倉町一色の鐘鑄神社と立て続けに彫刻している。</p> <p>主な作品</p> <table border="0"> <tr> <td>石の社</td> <td>: 石川町沢井八幡神社</td> <td>五重塔</td> <td>: 石都々古和気神社</td> </tr> <tr> <td>仁王像一対</td> <td>: 石川町沢井長福院</td> <td>狛犬一対</td> <td>: 石都々古和気神社</td> </tr> <tr> <td>不動明王像</td> <td>: 石川町沢井</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>恵比寿、大黒像</td> <td>: 石川町沢井</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>							石の社	: 石川町沢井八幡神社	五重塔	: 石都々古和気神社	仁王像一対	: 石川町沢井長福院	狛犬一対	: 石都々古和気神社	不動明王像	: 石川町沢井			恵比寿、大黒像	: 石川町沢井		
石の社	: 石川町沢井八幡神社	五重塔	: 石都々古和気神社																				
仁王像一対	: 石川町沢井長福院	狛犬一対	: 石都々古和気神社																				
不動明王像	: 石川町沢井																						
恵比寿、大黒像	: 石川町沢井																						
参考文献	ビジュアル石川町の歴史～石川町史別巻～ 石川町史第6巻 各論編1																						
関連項目	石都々古和気神社(4-001)		王子八幡神社(4-005)																				
	長福院(3-011)		八幡神社(沢井)(4-006)																				
備考	1881年生～1966年没																						

写真及び位置図等



石の社 八幡神社(沢井)



狛犬 石都々古和気神社参道



狛犬 王子八幡神社



石川町資源調査調書

通し番号	94	整理番号	8	-	008	作成	平成19年2月
名称	ヤマシタ <small>ハルヒ</small> 山下 春江				項目	人物	
管理	住所						
	連絡先						
	管理者及び所有者						
概要	<p>山口県阿武郡出身。1921年日本女子体育専門学校（現・日本女子体育大学）卒業。柔道2段のほか、空手・薙刀術の心得もあった。広島県の呉高等女学校で教師となるが、当時の校長と不正入試問題で対立し辞職、大阪毎日新聞記者に転進する。その後山下悌三と結婚、病弱の夫に代わり東京で「富士アスベスト工業所」の経営にあたる。戦災で工場が焼失したため、福島県石川郡母畑村（現・石川町）に疎開した。</p> <p>戦後、周囲の人々の勧めもあって、1946年の第22回衆議院議員総選挙に福島全区（当時）から日本進歩党公認で立候補し当選。日本初の女性代議士の一人となる。以後衆院当選6回。進歩党では中曽根康弘・小坂善太郎・川崎秀二らとともに、犬養健をリーダーとする「新進会」のメンバーだった。以後民主党→改進黨→自由民主党と遍歴する。</p> <p>1948年、当時の泉山三六蔵相に国会内でキスを迫られ、拒否したところ顎を噛み付かれるという事件が起きた。ほどなくして泉山は蔵相を辞任するが、山下もかねてから酒豪の評判があったことが災いし、「一緒にはしゃいでいた」とのデマが流布、翌1949年総選挙で落選の憂き目に遭った。しかし1952年総選挙で早くもカムバックした。</p> <p>1960年に落選すると、1962年参議院全国区から国政に振り返り、2期12年務める。社会保障問題に打ち込み、厚生政務次官、経済企画政務次官を歴任した。1971年勲一等瑞宝章受章。</p>						
参考文献	福島県の政治家						
関連項目							
備考	1901年生～1985年没						
写真及び位置図等							